

トントンサクサクヤナギの木の大変身 —「A表現(2)」—  
 ～ 太田川のヤナギの木を生かして生活に役立つものをつくろう ～

広島市立東野小学校 齋藤 隆登

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:40 3年3組教室

2 学年・組 第3学年3組(男子14名 女子17名 計31名)

3 題材について

- 本学級の児童は、図画工作科の授業を大変心待ちにしており、自分なりの表現を楽しんで行う児童が多い。発想や構想の能力については、材料からすぐにイメージをふくらませて活動に取り組む児童もいるが、周りの様子が気になったり、自分の思い付きを具体的な形に結びつけるのに時間がかかったりする児童もいる。材料の組み合わせや、用具の使い方がうまくできないために、イメージ通り表現ができず活動が止まる児童もいるが、別の方法を試みるなど積極的に工夫してつくっている姿も多く見られる。鑑賞については、その作品のよさや面白さを感じ取り、思ったことを話し合うことができるが、鑑賞する視点を与えないと、形や色などが感じ取りにくい児童もいる。
- 本題材は、学区の東を流れる太田川に生育するヤナギの木を生かし、生活に役立つものをつくる題材である。ヤナギの木の加工では、中学年で体験すべき小刀やのこぎりを正しく扱う必然性が生まれ、組み立てや飾りの接合では、金づちとくぎを意欲的に使うことが期待できると思いこの題材を設定した。ヤナギの木は、太田川の景観を美しくし、太田川を眺める人の心を休める環境作りに貢献している。しかし河川管理のために伐採され処分されるものもある。そこで、この身近なヤナギの木を利用して生活に役立つものをつくることは、自然のものを利用して暮らしに役立てることを体験することになる。飾りに使う自然物を集めてくる作業は、学校で栽培している植物も含め自然の物に目を向け、自然の美しさを感じ、自然を大切にしたい気持ちを育てることにつながると思われる。
- 指導に当たっては、身近な太田川のヤナギを見に行き、ヤナギの木とふれ合う機会を設定したい。またその伐採されるヤナギを利用することでヤナギの命を大切にすることになることを感じ取らせたり、詩や俳句をつくったりして心を寄せる活動も取り入れたい。ヤナギの木の枝は、自分の思いに合ったものを選ぶことができるように、いろいろな部分を準備しておく。用具の扱いがうまくいかない児童には、扱い方の掲示をしたり、その場で見せて説明したりする。イメージをふくらませにくい児童には、参考作品を見せたり友達の作品作りをヒントにさせたりして、自分で考えられるようにしたい。小刀やのこぎり、金づちなどの道具は置く場所を指定して、安全に使用させたい。鑑賞活動は、作品カードに枝や自然物の特徴と自分の意図や工夫したことを書かせ、それを使って行う。友達の作品を見合い、感じたことや思ったことを話し合う中で作品に対する見方や考え方が深まるようにしたい。

4 題材の目標

- 小刀やのこぎり、金づちなどの適切な扱い方を身につけるとともに、自分の思いに合った作品になるように、枝や自然物の特徴を生かして工夫して表す。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	ヤナギの木を生かして、生活に役立つものをつくることに関心をもち、取り組もうとしている。	生活に役立つものでつくりたい物のイメージを広げながら、形や色、大きさなどを考えている。	生活に役立つものでつくりたい物に合わせて、ヤナギの木の使い方や作り方を工夫して表している。	感じたことや思ったことを話しながら、ヤナギの使い方や飾り方の違いをとらえ、よさや面白さを感じとっている。

## 6 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第1次 （1時間）	<u>つくりたいものを考える。</u> ・使うヤナギの木の部分を選ぶ。 ・自然物を選ぶ。 ・イメージ図を書く。	ア （観察） イ （観察） （イメージ図）	・つくりたい物に合わせて、ヤナギの木や飾りにする自然物を適切に選んでいる。 ・ヤナギの木の特徴を生かし、形や大きさを考えて発想をふくらませている。	・参考作品を見せ、イメージをつかませる。
第2次 （本時2/3時間）	<u>つくりたいものをつくる。</u> ・枝を整える。 ・枝を組み合わせながらつくりたい物を考える。	ア （観察） イ （観察） （作品） ウ （観察） （作品）	・イメージをふくらませながら、つくる活動に意欲的に取り組んでいる。 ・用具を適切に使い、ヤナギを整えたり、枝を接着したりしている。 ・つくりたい物をイメージして、枝の模様を工夫していれている。 ・自分の思いが表せるように、自然物を工夫して接着している。	・用具の使い方の個別指導をする。  ・参考作品を見せ、イメージをつかませる。
第3次 （1時間）	<u>作品の鑑賞をする</u> ・互いの作品を見合い、鑑賞する。	エ （対話） （ワークシート）	・自他の作品を比べ、表し方の違いをとらえ、それぞれよさや面白さを伝えている。	・鑑賞の視点をどんな場所に置きたいかと考えるように助言する。

## 7 本時の目標

つくりたいものに合わせて、枝や自然物の接着の方法を工夫して表す。

## 8 準備物

（指導者）ヤナギの枝、小刀、作業版、のこぎり、滑り止めマット、丸太止め、金づち、くぎ、くぎぬき、ペンチ、洗濯バサミ、ホットボンド、麻ひも、扇糸、木工用ボンド、ワイヤー、修正液、自然物、手ふき

（児童）自然物、ボンド、はさみ

## 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 本時の学習内容をつかむ。	○本時の学習意欲を高めるような導入をする。	ア
<b>めあて ヤナギの枝や自然の物のつけ方を工夫して、生活に役立つものでつくりたい物をつくろう。</b>		
2 用具の使い方、接着方法を確認する。	○用具の使い方について、気をつけることを確認する。 ○枝や自然物の接着方法を確認する。	ウ （活動の様子） （つくりつつある作品）
3 つくりたいものをつくる。 ・接着方法を工夫しながら、枝や自然物をつける。	○のこぎり、小刀、金づちを置く場所を定め、安全に活動できるようにする。 ○イメージ図から変わってもよいことを伝える。 ○活動時間を知らせて、見通しをもって活動できるようにする。 ★接着方法で困っている児童には、その場で説明する。	
4 後かたづけをする。	○次の時間で仕上げることを伝える。	
5 学習のふりかえりと次時の予告をする。		

トントンサクサクヤナギの木の大変身 — 「A表現(2)」 —  
 ～ 太田川のヤナギの木を生かして生活に役立つものをつくろう ～

広島市立東野小学校 中川 智恵美

1 日時・場所 平成24年11月22日(木) 9:55～10:55 図工室

2 学年・組 第3学4組 (男子13名 女子17名 計30名)

3 題材について

- 本学級の児童は、図画工作科の授業を大変心待ちにしており、自分なりの表現を楽しんでいる。特に初めて使う用具や新しい技法を習うときなどは意欲的である。発想や構想の能力については、材料からすぐにイメージをふくらませて活動に取り組む児童が多いが、じっくりと考えてから取りかかる児童もいる。また周りの様子が気になったり、自分の思い付きを具体的な形に結びつけるのに時間がかかったりする児童もいる。材料の組み合わせや、用具の使い方がうまくできないために、イメージ通り表現ができず活動が止まる児童もいるが、別の方法を試みるなど積極的に工夫してつくっている姿も多く見られる。鑑賞については、その作品のよさや面白さを感じ取り、思ったことを話し合うことができるが、鑑賞する視点を与えないと、形や色などが感じ取りにくい児童もいる。
- 本題材は、学区の東を流れる太田川に生育するヤナギの木を生かし、生活に役立つものをつくる題材である。ヤナギの木の加工では、中学年で体験すべき小刀やのこぎりを正しく扱う必然性が生まれ、組み立てや飾りの接合では、金づちとくぎを意欲的に使うことが期待できると思いこの題材を設定した。ヤナギの木は、太田川の景観を美しくし、太田川を眺める人の心を休める環境作りに貢献している。しかし河川管理のために伐採され処分されるものもある。そこで、この身近なヤナギの木を利用して生活に役立つものをつくることは、自然のものを利用して暮らしに役立てることを体験することになる。飾りに使う自然物を集めてくる作業は、学校で栽培している植物も含め自然の物に目を向け、自然の美しさを感じ、自然を大切にしたい気持ちを育てることにつながると思われる。
- 指導に当たっては、身近な太田川のヤナギを見に行き、ヤナギの木とふれ合う機会を設定したい。またその伐採されるヤナギを利用することでヤナギの命を大切にすることになることを感じ取らせたり、詩や俳句をつくったりして心を寄せる活動も取り入れたい。ヤナギの木の枝は、自分の思いに合ったものを選ぶことができるように、いろいろな部分を準備しておく。用具の扱いがうまくいかない児童には、扱い方の掲示をしたり、その場で見せて説明したりする。イメージをふくらませにくい児童には、参考作品を見せたり友達の作品作りをヒントにさせたりして、自分で考えられるようにしたい。小刀やのこぎり、金づちなどの道具は置く場所を指定して、安全に使用させたい。鑑賞活動は、作品カードに枝や自然物の特徴と自分の意図や工夫したことを書かせ、それを使って行う。友達の作品を見合い、感じたことや思ったことを話し合う中で作品に対する見方や考え方が深まるようにしたい。

4 題材の目標

- 小刀やのこぎり、金づちなどの適切な扱い方を身につけるとともに、自分の思いに合った作品になるように、枝や自然物の特徴を生かして工夫して表す。

5 題材の評価規準

	ア造形への関心・意欲・態度	イ発想や構想の能力	ウ創造的な技能	エ鑑賞の能力
題材の評価規準	ヤナギの木を生かして、生活に役立つものをつくることに関心をもち、取り組もうとしている。	生活に役立つものづくりしたい物のイメージを広げながら、形や色、大きさなどを考えている。	生活に役立つものでづくりたい物に合わせて、ヤナギの木の使い方や作り方を工夫して表している。	感じたことや思ったことを話しながら、ヤナギの使い方や飾り方の違いをとらえ、よさや面白さを感じとっている。

## 6 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学習活動	学習活動における具体的評価規準等		
		評価規準 評価方法	十分満足できると 判断される状況	努力を要する 状況への手立て
第一 次 (1 時 本 時)	<u>つくりたいものを考える。</u> ・使うヤナギの木の部分を選ぶ。 ・自然物を選ぶ。 ・イメージ図を書く。	ア (観察) イ (観察) (イメージ図)	・つくりたい物に合わせて、ヤナギの木や飾りにする自然物を適切に選んでいる。 ・ヤナギの木の特徴を生かし、形や大きさを考えて発想をふくらませている。	・参考作品を見せ、イメージをつかませる。
第二 次 (3 時 間)	<u>つくりたいものをつくる。</u> ・枝を整える。 ・枝を組み合わせたらつくりたい物を考える。	ア (観察) イ (観察)(作品) ウ (観察)(作品)	・イメージをふくらませながら、つくる活動に意欲的に取り組んでいる。 ・用具を適切に使い、ヤナギを整えたり、枝を接着したりしている。 ・自分の思いが表せるように、自然物の形や色を生かし配置を工夫している。	・用具の使い方の個別指導をする。 ・参考作品を見せ、イメージをつかませる。
第三 次 (1 時 間)	<u>作品の鑑賞をする</u> ・互いの作品を見合い、鑑賞する。	エ (対話) (ワークシート)	・自他の作品を比べ、表し方の違いをとらえ、それぞれよさや面白さを伝えている。	・鑑賞の視点をどんな場所に置きたいか考えるように助言する。

## 7 本時の目標

つくりたい物に合わせて、枝や自然物を選び、イメージをかためる。

## 8 準備物

(指導者) ヤナギの木や枝、自然物、用紙、のこぎり、くぎ、金づち、ペンチ  
 (児童) 筆記用具、自然物、ボンド

## 9 本時の展開

学習活動	○教師の支援 ★努力を要する児童への支援	評価規準・評価方法
1 本時の学習内容をつかむ。	○児童を集めて、本時の学習意欲を高めるような導入をする。	ア
<b>めあて ヤナギの枝や自然の物を選んで、生活に役立つものでつくりたい物を決めよう。</b>		
2 接着の方法を知る。	○釘やボンド、ひもで枝を接着する方法を知らせ、組み立てを考えやすくする。	イ (活動の様子) (イメージ図)
3 材料の組み立てを考える。 ・枝を組み合わせたら、自然物の飾りとなるものを選んだりしながらイメージを固めていく。	○各班の机にのこぎりを用意しておき、自分の思いに合う枝を切り取れるようにしておく。 ○活動時間を知らせて、見通しをもって活動できるようにする。 ○イメージが固まった児童からつくり始めるように伝える。 ★イメージをふくらませにくい児童には、参考作品を見せながら、相談にのる。	
4 後かたづけをする。		
5 次時の予告をする。	○枝を接着したり、自然物をつけたりすることを伝える。	